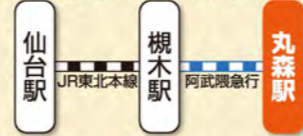


ACCESS



電車

仙台駅から(約1時間)

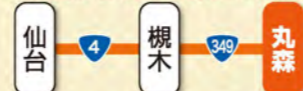


福島駅から(約50分)

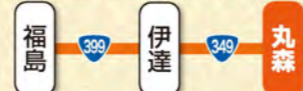


自動車

仙台から(約1時間30分)



福島から(約1時間)



東北自動車道
白石 I.C. から(約40分)



常磐自動車道
新地 I.C. から(約25分)



水とみどりの輝くまち

丸森町

MARUMORI



宮城県丸森町

〒981-2192 宮城県伊具郡丸森町字鳥屋120
TEL.0224(72)2111 FAX.0224(72)1540



町章



町の花／やまゆり



町の鳥／うぐいす



町の木／すぎ

水とみどりの輝くまち 丸森町

M A R U M O R I T O W N

丸森町民憲章 昭和59年12月1日制定

わたくしたちの町は、豊かな阿武隈川を囲む美しい自然と歴史の町です。

わたくしたちは、限りなく躍進する住みよいふるさとをつくるため、この憲章を定めます。

1. 思いやりを大切にし、明るい家庭をつくります。
2. きまりを守り、和やかな町をつくります。
3. 働くことに誇りをもち、豊かな町をつくります。
4. 心身を鍛え、健康な町をつくります。
5. 教養を深め、文化の香り高い町をつくります。

町の概要

丸森町は宮城県の南端に位置し、南西は福島県と隣接しています。町の北部を東北第二の大河である阿武隈川が貫流し、その流域と支流河川(内川・雉子尾川)の流域一帯が平坦地を形成している一方、南東部は500m内外、北西部は300m前後の阿武隈川山脈の支脈に囲まれた盆地状の町です。

町の総面積は273.30平方kmで仙南広域圏の約17.7%、年間降水量は約1,200mmですが、太平洋側特有の春の雪が30cm程度積もることがあります。

また、優れた自然環境を有する阿武隈川流域やその支流流域には貴重な植生群や奇岩等があり、昭和63年11月には阿武隈溪谷県立自然公園に指定されています。



INDEX

丸森町の春夏秋冬	02
丸森町全域マップ	04
自然 Nature	06
文化 Culture	08
楽しむ Have fun	10
PICKUP まるもり 齋理屋敷、小斎奉射祭、阿武隈ライン舟下り	12
まちづくりの取り組み	14
歳時記	20
町長あいさつ	21

春

SPRING



ウバヒガン桜

森を吹き抜ける爽やかな風
新緑と花々の鮮やかなグラデーション
豊かな流れの阿武隈川



金山城跡



新緑の散歩



ブナの原生林



阿武隈ライン舟下り

夏

SUMMER



絵灯籠の小路

川遊びをする子どもたちの元気な声
盛夏に涼を届ける「不動滝」
一夜限りの夏祭り「齋理幻夜」



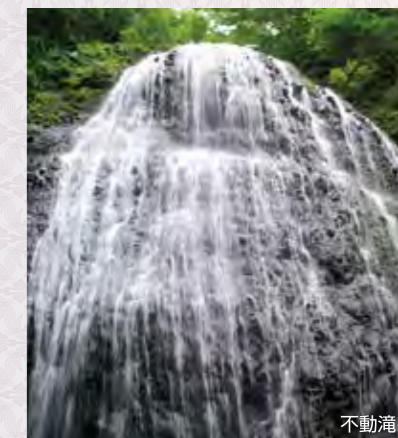
齋理幻夜



岩岳



不動尊公園キャンプ場



不動滝

秋

AUTUMN



大張沢尻棚田

頭を垂れた棚田の稲穂
一面に広がる秋咲きのひまわり畑
活気にあふれたいくつもの“まつり”



大銀杏



館矢間ひまわりまつり



丸森かかし街道



不動尊公園

冬

WINTER



厳冬の地藏滝

脈々と受け継がれる伝統とくらし
軒先を彩る「ころ柿」のカーテン
荘厳な佇まいの「地蔵滝」



筆奉納祈願



ころ柿



齋理の雛まつり



小齋 奉射祭



水とみどりの輝くまち

丸森町

丸森町 全域マップ

MARUMORI MAP

- ①～⑩ 6ページ、7ページ **自然** に詳しく掲載
- ①～⑨ 8ページ、9ページ **文化** に詳しく掲載
- ①～⑤ 10ページ、11ページ **楽しむ** に詳しく掲載

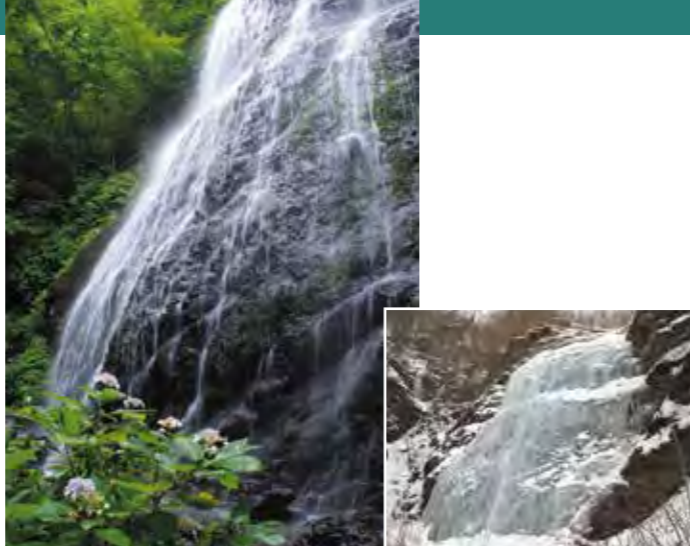
自然

PICKUPまるもり Nature

① 不動滝(大内地区)

MAP D-4

夏は涼感あふれる幅の広い滝です。冬場の1月下旬から2月上旬頃には全凍結した幻想的な姿を見ることができます。凍結時の高さは約25m、幅は約15mあり訪れた人々を魅了しています。



② ウバヒガン桜(筆甫地区)

MAP B-3

筆甫地区にある高さ約30m、根本の幹周り約10m、樹齢500年以上と推定される町指定天然記念物です。4月下旬には毎年、淡く小さな花を咲かせます。



③ 丸森大銀杏(丸森地区)

MAP C-2

樹齢600年以上と推定される高さ約42m、根周り約17mの銀杏の大木です。宮城県の天然記念物に指定されています。

④ 館矢間ひまわり畑(館矢間地区)

MAP C-1

9月中旬に秋咲きのひまわりが一面に咲き誇ります。丸森町の秋の風物詩となっており、ひまわりまつり開催期間中は直売所も出店され、毎年賑わいを見せています。



⑤ 夫婦岩(筆甫地区)

MAP B-3

丸森町の雄大な景色を望むことができるビューポイントです。登山道も整備されており、トレッキング初心者の方でも約1時間で登ることができます。



⑥ 岩岳(筆甫地区)

MAP C-3

岩岳一帯は水墨画を思わせるような美しい景色です。風化により作られる岩塔と呼ばれる巨大な岩が建ち並び、自然林とともに見事な景観を作っています。岩岳は稜線を歩いて山頂まで登ることができ、その景色を一望できます。



⑦ 百々石公園(丸森地区)

MAP C-2

丸森の街並みや阿武隈川を眺めることができる眺望の良い公園です。また公園内には野花にあふれ、春にはサクラやツツジ、夏にはアジサイやヤマユリ、ヤマハギなどが咲き乱れます。



⑧ 大張沢尻棚田(大張地区)

MAP B-1

阿武隈川沿いの国道349号線から脇道に入り、山を登ると「日本の棚田百選」に選ばれた景色が広がります。春には水の張った水田がキラキラと輝き、秋には頭を垂れた黄金色の絨毯が郷愁を誘います。



⑨ 笠松(丸森地区)

MAP B-1

この地域の地名の由来となったと言われている幹周り3mを超えるアカマツの古木です。左右に大きく広がったその姿は歴史を感じさせる佇まいです。丸森町の天然記念物に指定されています。



⑩ 水芭蕉群生地(筆甫地区)

MAP B-4

水芭蕉(ミズバショウ)は丸森町筆甫にある湿地帯の雑木林の中、清水の流れるところに群生しています。4月中旬~下旬頃そっと花を咲かせます。



文化

PICKUPまるもり Culture

① 齋理屋敷(丸森地区)

MAP C-2

【住所】丸森町字町西 25
【TEL】0224-72-6636

江戸時代後期から昭和初期にかけて、阿武隈川の舟運をきっかけに七代にわたり栄えた豪商、齋藤理助の屋敷です。

その屋敷および収蔵品すべてを町が譲り受け、「蔵の郷土館」として開放したのが齋理屋敷です。

詳しくは12、13ページ上段をご覧ください。



⑤ 台町古墳群(丸森地区)

MAP C-2

前方後円墳や大小の円墳が約200基群集しており、埴輪や鏡、勾玉、刀などが出土しています。

⑥ たたら製鉄(筆甫地区)

MAP B-4

江戸時代、キリシタン武士(東海林備後)によって伝えられたという「たたら製鉄」ですが、2002年に筆甫地区の“復元する会”によって約370年ぶりに復活しました。鉄の原料である砂鉄は阿武隈川の河原から採取し、製鉄は年4回行われます。



⑦ 筆神社(筆甫地区)

MAP B-3

筆にまつわる地名にちなみ地域おこしとして建立された神社です。毎年11月には「筆奉納」などを行う“ひっぽ筆まつり”が行われ観光客で賑わいます。



⑧ 阿弥陀堂(筆甫地区)

MAP B-3

慶長17年(西暦1612年)頃、キリシタン武士(東海林備後)が一族で筆甫に移住し、マリア観音を礼拝するために屋敷の裏山にこの阿弥陀堂を建立しました。



⑨ 旗巻古戦場跡(大内地区)

MAP D-3

戊辰戦争の最中に熾烈な攻防が繰り広げられた旗巻峠。その一帯に藩士の戦死塚、砲壘台跡などが残され、歴史の重みを肌で感じることができます。



伊具三城

② 丸山城跡(丸森地区)

MAP C-2

伊達家十四代当主“植宗”(政宗の曾祖父)が晩年17年間の隠居生活を送った城が丸山城です。今も植宗の墓が残っています。



伊達植宗公の墓碑



③ 柴小屋城【小齋城】(小齋地区)

MAP C-1

伊達氏と相馬氏の争いが激しかったころ、金山城と同じく戦略的に重要な城として現在の陣場山・八重垣神社のあるあたり、丘陵地の開けた土地に城がありました。平成25年には城からの眺めを再現できる“物見やぐら”が造られ、小齋地区を一望できるようになりました。



④ 金山城跡(金山地区)

MAP C-2

永禄年間に相馬氏の家臣井戸川将監、藤橋紀伊守が築城したと言われていました。その後、相馬氏と伊達氏の争いの渦中にありましたが、天正12年(1584年)に金山城は伊達氏の支配する所となりました。その戦いの中で功績のあった保原城主中島宗求は金山・大内・伊手に二千石を与えられ金山城主となりました。金山城は仙台藩の南の要所として江戸時代を通じてこの地域を守りました。



PICKUPまるもり Have fun

MARUMORI☆Green Tourism

丸森型グリーン・ツーリズム

「阿武隈ライン舟下り」「不動尊公園キャンプ場」「滞在型市民農園(クラインガルテン)」に代表される“自然休養型観光”や「齋理屋敷」を中心とした“歴史・文化体験型観光”、そこで提供される自然や農業による“学習・体験型イベント”に加え、「直売所」などにおける町民との“ふれあい交流”や“おもてなし”などの全てを丸森型グリーン・ツーリズムとして推進しています。



① 阿武隈ライン舟下り

MAP C-1

【住所】丸森町下滝 12
【TEL】0224-72-2350

阿武隈川の舟運の名残を今に残す舟下り。四季折々の丸森町の情景を味わうことができます。味わうといえば、秋の食材がたっぷり入った“いも煮”を船上で食べることができ「いも煮舟」が秋に運航します。また、暖かいコタツに入りながら冬の景色を楽しむ「こたつ舟」も好評です。



② 不動尊公園キャンプ場

MAP C-3

【住所】丸森町字不動 64-1
【TEL】0224-72-2646

阿武隈渓谷県立自然公園内にあるキャンプ場です。緑にあふれた森に、魚釣りや水遊びをする子どもたちの歓声が響きます。また、コテージも8棟あり、専用のかまどでバーベキューやいも煮などのアウトドアクッキングも楽しむことができます。



③ 丸森ウォークラリー大会

MAP 丸森町内特設コース

チェックポイントごとのしなげをとおして丸森町の魅力を感じてもらう学習体験型イベントです。コマ図とよばれるウォークラリー特有の地図に沿って進み、出題される問題を解決しながら時間点と課題点の合計で順位を競います。毎年秋に開催され、秋色に染まる丸森町の自然を満喫できます。



④ サイクルフェスタ丸森

MAP 丸森町内特設コース

特設コースは毎年変更されます。

毎年秋に行われるサイクリングイベントです。町外からの参加者が多く、丸森町の自然あふれる景色を存分に肌で感じることができます。コースはショートコースとロングコースの2種類があり、入門者から上級者までが楽しめるものになっています。



⑤ 国民宿舎あぶくま荘

MAP B-2

【住所】丸森町字不動 50-5
【TEL】0224-72-2105

内川渓谷を望む眺望が楽しめる国民宿舎です。地元の食材を中心とした料理で宿泊客に大好評です。また、大浴場は日帰り入浴も可能で、観光に訪れた方の疲れた体を癒してくれます。





齋理幻夜 絵灯ろう

齋理屋敷

古き良き日本の情景を残す丸森町の中心街区。その家並みの真ん中に、数棟の蔵を従えた堂々たる町屋建築の屋敷が建っています。

この建物は、江戸時代後期から、呉服や養蚕、味噌醤油の醸造、金融業など、幅広い商売を手がけ、昭和初期まで七代続いた豪商・齋藤家の屋敷。代々の当主が齋藤理助を名乗ったことから「齋理屋敷」と呼ばれるようになりました。

齋藤家は、明治以降には小学校の建設など地域振興にも尽力しましたが、東北本線が白石経由で敷設されると町は徐々に活力を失い、齋藤家も第二次世界大戦後に閉業。昭和61年(1986)、屋敷と蔵の収蔵品が町に寄贈されました。町は収蔵品を調査し、屋敷や蔵を整備。2年後の昭和63年(1988)、「蔵の郷土館」として開館しました。

東京ドームのグラウンドの約半分に匹敵する約6500㎡の敷地内には、往事の居宅が1棟、蔵が6棟、

石造りの湯屋1棟、そして町が新設した2棟の建物の計10棟が立ち並んでいます。嘉永元年(1848)に建てられた屋敷内最古の建物である二階建て土蔵造りの店蔵のほか、蔵や石風呂など6つの建築物や工作物など併せて12の建造物が、平成22年(2010)、国の登録有形文化財に指定されました。

町と郷土の歴史を伝える施設として、現在は「端午の節句」「齋理の歳迎え」「齋理の雛まつり」という3回の企画展のほか、特別企画展も開催中。また、「シルク和紙・紙漉き体験」や、語り部たちが昔話を語る「齋理ざっとむかし」も定期的に行われています。

そして、8月上旬には齋理屋敷とその周辺の通りを会場に、町いちばんのイベントである「齋理幻夜」が繰り広げられます。

開催されるのは、真夏の夜の、限られたわずか3時間ほどの時間。通りに飾られた約1000基の手作り絵灯籠の幻想的な光の中に、どこか大正ロマンの影を湛えた街並みがゆらりと浮かび上がり、創作太鼓や舞踊、紙芝居、夜店など多彩な催しが祭りを盛り上げます。



平成22年12月 国の登録有形文化財指定



絵灯籠の小路



小斎鹿島神社「奉射祭」

奉射祭 小斎鹿島神社

小斎地区の鹿島神社は、平安時代初めの貞観8年に編纂された『日本三大実録』には「常陸国鹿島大神の苗裔神伊具郡に―社」と記されており、これが現在の鹿島神社と考えられています。また、景行天皇の御代、日本武尊(ヤマトタケル)の東征の時、国家鎮護を祈願して創建されたとも伝えられています。

そんな長い歴史を誇る鹿島神社では、毎年3月、五穀豊穡と地域の安全を祈願する「奉射祭(やぶさめ)」という、古式ゆかしい神事が行われています。

「やぶさめ」は、馬に騎乗して弓を射る「流鏑馬」が有名ですが、鹿島神社の「奉射祭」は、立ったまま射るのが特徴。寛永20年(1643)、小斎佐藤家4代領主・清信公が行かせたのが始まりです。明治時代以降は、中断と復活が何度か繰り返されていましたが、平成3年になって完全復活しました。

弓士10名は、前日から精進潔斎をして、当日も水

垢離で身を清めます。

その後、目隠しをした宮司が12本の矢を放つ射的を射る「御神の神事」が行われ、小斎の12カ月間の天候を占います。この神事に使われる弓と矢はどちらも木の枝で作られるというユニークなもの。そして清楚な巫女たちが厳かに舞う「巫女舞」のあと、10名の弓士による「大射礼」と「雁(かりがね)、が翼を広げた姿を描いた射的を狙う「かりがねの射礼」と続きます。

地域の鎮守神を大切に、作物の豊作を祈願するほか、かつては武芸の上達祈願と錬磨、精神の鍛錬という意味も込められていました。そして今では地域のイベントとしても賑わっていて、「かりがねの射礼」で100本の矢のうち何本が命中するかを当てる「弓士クイズ」や「弓士体験」などが行われます。

丸森町に春の訪れを告げる神事。遠方からの観覧客も年々増えています。



戦前の小斎鹿島神社「奉射祭」



御神の神事



阿武隈ライン舟下り

阿武隈ライン 舟下り

阿武隈川は延長239kmで、東北地方では北上川に次ぐ長さを誇る大河です。那須山系の甲子旭岳を源に、福島県中通り地方を北流し、阿武隈山地北端の狭隘部を抜けて宮城県に入り、亘理町荒浜に海に注いでいます。

江戸時代には米沢や福島で産する米を運ぶ経路として利用され、沿岸の街は舟運で賑わいました。米は、福島から丸森までは小型の舟で運ばれ、丸森で大型の平田船に積み替えられて、荒浜から外洋に行く東回り航路で銚子(千葉県)へ。さらに利根川水系の水路を遡って江戸まで運ばれました。

「阿武隈ライン舟下り」は、舟運華やかなりしころの風情を伝える観光遊覧船です。丸森町から上流へ向かう河岸は「阿武隈渓谷県立自然公園」にも指定された水と緑の自然美あふれるエリアです。大規模な丘陵地河川景観や、大岩が雄大な景色を立ち上げる断崖

などを見晴らしながら、約11km、1時間の船旅が楽しめます。

春は新緑やヤマザクラの明るく眩しい光に包まれ、夏は涼風に心を解きつつ夏雲の影を追い、秋は色づいたカエデやブナなど紅葉と黄葉の照り返しに目を細め、そして冬はこたつ船に乗って、名物「しし鍋」を味わいながら水墨画のような岩稜や断崖を見上げる…渡り鳥やトンボの群れ、雄大な阿武隈川の川面からの景色は、やはりひと味違います。

「弘法の噴水」や「亀石」「白衣観音」など見どころをガイドしてくれる船頭さんの水先案内も楽しく、歌ってくれる丸森の民謡を聞きながら、川に浮かび、流れにまかせてゆったりと滑るように行く船旅は、四季それぞれの詩情を心に刻んでくれます。

乗り合わせた人同士が仲良くなることも多く、また、冬のこたつ船では船着き場についてもこたつから出たがらない方も多とか。見知らぬ同士が「団らん」できるのも阿武隈ライン舟下りの魅力のひとつです。



昭和40年4月 本格的に始まった舟下り



丸森大橋



朝霧の阿武隈川



人と地域が輝き 豊かで元気なまち・まるもり

一人ひとりの“郷土愛”で未来につなげるまちづくり

『水とみどりが輝く私たちの故郷まるもり』自然豊かなこの町に暮らすすべての人々と地域が輝き続け、一人ひとりが郷土を愛する心を持ち、ともに助け合い、世代を超えて未来に続く豊かで元気なまちを創ります。

■ まちづくりの施策における基本方針

1 郷土愛で支える元気なまちづくり

- 子どもたちが丸森で生まれ育ったことを誇りに思える環境づくりを進めます。
- 学校教育環境の整備とともに、家庭・地域・学校が連携した教育環境の充実を図ります。
- 人材の育成と幅広い学習機会の提供などによって、健やかで共に学び、育ち、支え合う取組みを進めます。
- 史跡などの保存継承とともに、郷土愛を持った、まるもり大好き人を育てます。



卒業証書と紙すき

2 誰もがいきいきと安心して暮らせるまちづくり

- 一人ひとりの健康意識を高め健康寿命を延ばすことで、健やかに長生きできるまちづくりを推進します。
- 高齢者が地域の中で安心して暮らせるまちを目指します。
- 障がい者が住み慣れた地域でいきいきと生活できるよう、地域福祉の充実を図ります。
- 社会保障制度については、適正な事業運営に向けた取組みを進めます。



丸森町健康まつり

3 安全と安らぎのあるまちづくり

- 安心・安全の地域づくりに向けて、交通安全意識の啓発と防犯対策の充実を図ります。
- 自然災害から町民の生命、財産を守るために、地域と行政が連携した安心・安全のまちづくりを目指します。
- 放射性物質を含む廃棄物の適正な管理・処理を国が責任を持って取組むことを要請していくとともに、放射性物質に関する適正な情報発信を進めます。



自主防災組織活動

4 町民と行政がともに創造するまちづくり

- 町民が主体的に活動する「地域が輝くまちづくり」を目指します。
- 厳しい財政運営の中、健全で効率的な行政運営に努めます。
- 町民の個人情報の適切な管理、分かりやすい行政情報の提供によって、多くの人が住んで良かったと実感できるまちづくりを進めます。



小斎 奉射祭

5 美しい自然環境を次代へ継承するまちづくり

- 豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐために、町土の計画的な保全と利用に取り組めます。
- 町民と行政が連携した事業活動を推進し、低炭素社会の実現を目指します。
- 環境保全に対する意識啓発を積極的に行い、きれいなまちづくりを目指します。



館矢間ひまわりまつり

6 地域力を活かした活力を生み出す産業のまちづくり

- 地域の特性に合った農林産物の生産と産地化など、豊かで元気な農業の実現を目指します。
- 将来的に安定した経営体を確保することで、新たな活力を生み出します。
- 農村資源の保全と活用に努め、良好な農村環境を未来に引き継ぎます。
- 耕畜連携を推進し、効率的な農地利用と安全で良質な畜産物の生産を進めます。
- 豊かな森林資源の有効活用と森林の有する多面的機能の維持・向上のため、適正な維持管理に努めます。
- 新たな企業誘致、商店街の活性化、地元企業との連携による賑わいと活力のあるまちづくりを進めます。
- 東北放射光施設について、宮城県南市町と福島県隣接自治体、企業との連携により誘致を目指します。



金山工場団地

7 地域資源を活かした交流の盛んなまちづくり

- 観光交流人口70万人の達成と地域に根差した持続的な観光産業の確立を目指します。
- 丸森ファンネットワーク事業や姉妹都市交流事業を通じて友好の輪を広げ、交流活動を推進します。



蔵の郷土館 齋理屋敷

8 住み続けたいと思える快適で魅力的なまちづくり

- 若者定住対策を重点的に取り組むなど、魅力的な居住環境の整備を図ります。
- 交通弱者対策を図るとともに、効率的で利便性の高い公共交通の維持に努めます。
- 利便性の高い道路環境の形成を図ります。
- 生活を支えるインフラの整備や、長期的な視点での施設管理によって、快適な生活環境の維持に努めます。



若者定住促進住宅



まちづくりの重点戦略

重点戦略とは

人口減少や超高齢化への対応、安心・安全のまちづくり等、本町におけるまちづくりの課題は多岐にわたっていますが、限られた財源や人材で、課題解決に向けて基本計画に位置づけた事業を一斉に取り組むことは困難です。

重点プロジェクトは、庁内の横断的な連携はもとより、町民や事業者等が連携して総力を挙げて取り組む重点的な事業です。町の現況や課題等を踏まえて3つの重点戦略を掲げ、それに基づく事業を進めていきます。



重点戦略I

丸森で活躍する人を育てる

ふるさと丸森を愛する心を育てるとともに、高い学力を身につける教育環境の整備により、世界に羽ばたく意欲ある人材と町外へ発信力のある人材、地域の活力を担う人材と組織を育成します。

● 「郷土愛」を醸成し、丸森の魅力発信や地域に貢献できる創造的な人材を育成します。

事業① 「郷土愛」教育事業

事業② 子ども向け郷土誌作成事業

● 高い学力を身につける教育環境の整備を行います。

事業① ICT教育環境整備事業

事業② 学力向上研究指定校事業

事業③ 町内全小中学校統一学力調査事業

事業④ 外国語教育充実事業



丸森子ども学び塾

● 世界に羽ばたく意欲ある人材の育成と、地域を守り育む人材や組織を育成します。

事業① まちづくり人材育成事業

事業② 地域貢献組織育成事業

事業③ 住民自治組織運営支援事業

事業④ まちづくり活動支援助成金交付事業

事業⑤ 丸森びと育成支援事業



新相馬節全国大会

重点戦略II

地域が元気な丸森をつくる

地域資源を活かした産業の活性化、地域が主体の再生可能エネルギーの導入、健康寿命の延伸により、地域がいきいきとした元気な丸森をつくります。

● 地域の特徴を活かした6次産業化の推進と丸森ブランドの創出により「儲かる農業」を推進します。

- 事業① 丸森町農業創造センター事業
- 事業② 儲かる農業実践者ブラッシュアップ事業
- 事業③ 集落営農育成支援事業
- 事業④ 特産品開発・販売促進事業
- 事業⑤ 中山間地域伝統特産品振興対策事業



集落営農

● 地域資源を活かした観光の産業化、再生可能エネルギーの導入を推進します。

- 事業① 百々石公園再整備事業
- 事業② 地域主導型再生可能エネルギー導入支援事業
- 事業③ 地域資源を活かした街並み環境整備事業
- 事業④ 国民宿舎あぶくま荘建替事業
- 事業⑤ グリーン・ツーリズム推進事業



グリーン・ツーリズム

● 「健康づくり」と「介護予防」を充実し“健康寿命”の延伸を図ります。

- 事業① 健康状況把握事業
- 事業② 認知症総合支援事業
- 事業③ 家族介護支援事業
- 事業④ 介護予防・日常生活支援サービス事業
- 事業⑤ 在宅医療・介護連携推進事業



健康と福祉のつどい

重点戦略III

丸森で暮らす人を増やす

企業誘致の推進と地域に根付いた雇用をつくるとともに、子育て世代が生活しやすい環境づくりや生活利便性の確保などにより、丸森の定住人口を増やしていきます。

● 最先端の技術を有する企業誘致と雇用の創出を図ります。

- 事業① 東北放射光施設誘致促進事業
- 事業② 工場団地造成事業
- 事業③ 企業立地情報発信事業
- 事業④ 空き店舗・空き家等活用事業

● 地域性を活かし、多様なニーズに応じた住環境を提供することにより、移住・定住を促進します。

- 事業① 丸森まるごとフィールドワーク事業
- 事業② 移住マネジメント事業
- 事業③ 定住促進事業
- 事業④ 丸森駅周辺住環境整備促進事業
- 事業⑤ 空き家調査事業

● 子育て世代が暮らしやすいまちづくりを推進します。

- 事業① 子育て支援センター運営支援事業
- 事業② 保育施設の再編・改修促進事業
- 事業③ 認定こども園運営支援事業
- 事業④ 子ども医療費助成事業



丸森たんぽぽこども園

● 暮らしを支える公共交通機関の確保と生活基盤の整備を推進します。

- 事業① 丸森町阿武隈急行線利用促進事業
- 事業② デマンドタクシー運行事業
- 事業③ 町民バス運行事業
- 事業④ 主要地方道白石丸森線整備促進事業
- 事業⑤ 国道349号整備促進事業
- 事業⑥ 町道改良舗装事業
- 事業⑦ 水道未給水対策事業

歳時記

EVENT CALENDAR

イベントカレンダー

MARUMORI TOWN

February	2月	2月中旬～3月下旬 雛まつり 齋理屋敷
March	3月	第2日曜 奉射祭(やぶさめ) 小斎鹿島神社
April	4月	4月中旬～5月下旬 丸森スタンプラリー 4月中旬～5月下旬 端午の節句 齋理屋敷 下旬 愛敬院 春まつり 愛敬院
May	5月	上旬～ 中旬 たけのこ狩り体験 耕野 第2土・日曜 丸森いち 丸森中心部
July	7月	下旬 神明社夏祭り 丸森
August	8月	上旬 竹とうろう祭り 齋理幻夜 齋理屋敷
September	9月	中旬～下旬 ひまわりまつり 館矢間 9月上旬～11月上旬 かかしまつり
October	10月	上旬 サイクルフェスタ丸森 下旬 全日本石投げ選手権 阿武隈川河川敷
November	11月	中旬 丸森ウォークラリー大会 23日 ひっぼ筆まつり 筆甫 筆神社 下旬 自然薯じゅうねん収穫祭 大内 下旬 ころ柿作り体験会 耕野
December	12月	12月中旬～1月下旬 齋理の歳迎え 齋理屋敷 12月中旬～1月下旬 へそ大根づくり体験会



齋理雛まつり



小斎鹿島神社奉射祭



齋理幻夜



かかしまつり



ひっぼ筆まつり



へそ大根

※イベントの詳細については、観光案内所 やまゆり館 ☎0224-72-6663 までお問い合わせください。

ごあいさつ

丸森町は宮城県の最南端に位置し、東北第二の大河である阿武隈川が町の北西部を貫流する自然豊かな“水とみどりの輝くまち”です。

この町の先人たちは、社会情勢の変化や時代の潮流を踏まえながら、優れた知恵と巧みな工夫により歴史を築き上げてきましたが、今を生きる私たちは、このかけがえのない“財産”を次の世代に引き継ぐ重責を担っています。

しかしながら、現在は、少子高齢化に伴う急激な人口減少をはじめとする、克服しなければならない様々な課題を抱えています。

この状況から一日も早く脱却するため、『人と地域が輝き 豊かで元気なまち・まるもり～一人ひとりの“郷土愛”で未来につなげるまちづくり～』を将来像とする第五次丸森町総合計画に基づき、「丸森で活躍する人を育てる」「地域が元気な丸森をつくる」「丸森で暮らす人を増やす」の3つの重点戦略を掲げながら、世代を越えて未来へとつながっていくまちづくりを推進していきます。

地方の再生が求められるこれからの時代においても、一筋の輝きを放ち続け、この町に暮らす人々はもちろん、この町を訪れる皆様からも愛されるまちとして、新しい歴史をひとつひとつ積み重ねてまいります。

最後に、この要覧を通じ、丸森町の個性や魅力、そして、これからどのような姿を目指していくのかをご理解いただき、一度足を運んでいただければ幸いです。



丸森町長
保科郷雄



水とみどりの輝くまち

丸森町